

### 3.3.2 事業アーキテクチャ研究（ケース2）

- 作成責任者: 亀井 省吾 氏 (産業技術大学院大学 特任准教授)
- タイトル: 「株式会社もちひこー産業用テントメーカーの新たな挑戦ー」
- 教材資料: 以下、資料1枚目のみ掲載(全編抜粋を「5.付録」へ掲載)

#### 事業アーキテクチャ研究ケース

## 株式会社もちひこ



### 産業用テントメーカーの 新たな挑戦

「当社の端材でこんなものが作れるのか・・・」、望月は社長室の机に置かれたお洒落なバッグに目を落としながら呟いた。半年前、自社で製造するテントの端材の廃棄に毎年多額の費用がかかる大学院の同窓生でコンサルタントをしているKにこぼした処、「端材を無料で引き取ってくれる人がいる」とKから紹介を受けたのがデザイナーのGであった。Gによると、現在はリサイクル材を活用した製品が環境に優しいと評価高く、ヨットの帆やテント材は耐久性、耐水性にも優れているからバッグなどに向いているのではないかという事であった。試しに、端材をGに送ったところ、デザインを施したバッグをサンプルとして送ってきたのだった。話では、既に有名ブランドショップで販売することが決まっているということだ。「これは新規事業として良いかもしれない」、望月はスマートフォンでGのアドレスを探し始めていた。

望月は、産業用テントハウスの設計、製造、販売を主業とする株式会社もちひこの二代目社長である。創業者である父親の後を継ぎ10年強、当初倒産寸前の下請け企業であった同社を、完全な独立企業として、それまで親企業に頼りきりであった販路を一から開拓し、現状では国内第2位グループの位置づけにまで成長させてきた。未だ40歳前後でここまで同社を牽引してきた望月ではあったが、ここ数年の営業数字の頭打ちには悩んでいた。会社を持続的に成長させるにはどうすればよいか、最近の望月の思考は、自然と新規事業創生へと向かうことが多くなっている。

### 3.3.3 事業アーキテクチャ研究（ケース 3）

- 作成責任者: 戸沢 義夫 氏 (産業技術大学院大学 情報アーキテクチャ専攻 教授)
- タイトル: 「インキュベクス株式会社の新たな取り組み」
- 教材資料: 以下、資料 1 枚目のみ掲載

## インキュベクス株式会社の新たな取り組み

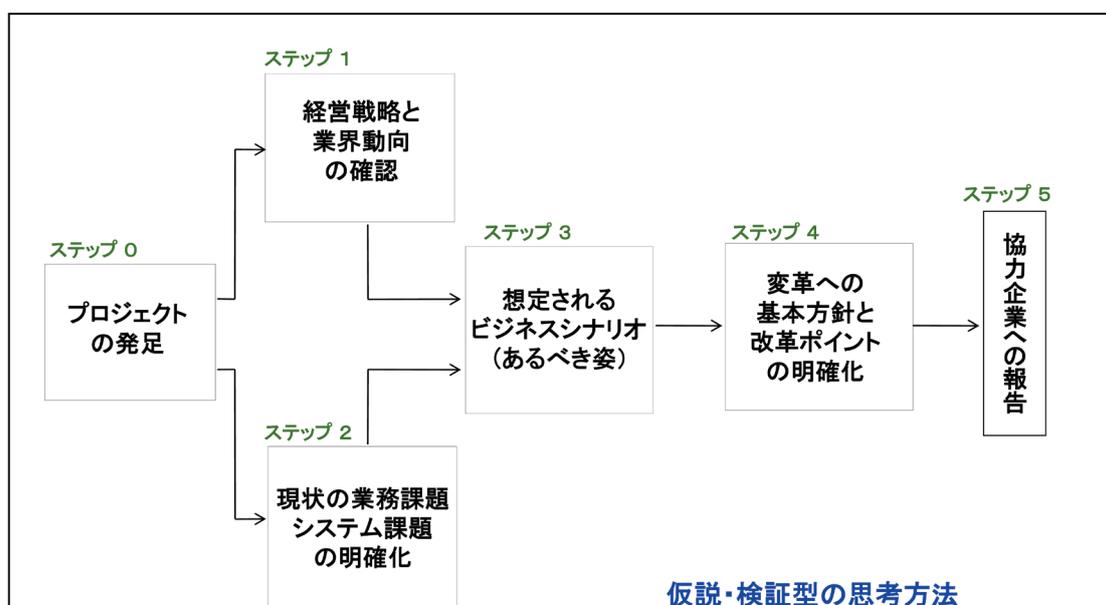
【ケース】

2015年10月作成

インキュベクス株式会社社長（上村隆幸）は、自分のやっているビジネスに参考になる新しい知見が得られるのではないかと期待から大学院で勉学することを決めた。最初は北陸先端科学技術大学院大学に入学したが、同大学の博士課程の学生A女史が産業技術大学院大学修士の修了生であったことから、産業技術大学院大学に興味を持ち、産業技術大学院大学を受験することになった。本人は自分が IT の知識を全く持っていないとの自覚から、情報アーキテクチャ専攻ではなく、創造専攻を選択し入学した。

戸沢教授（情報アーキテクチャ専攻）は PBL に協力してくれる企業を探していたが、A女史が上村社長を紹介してくれたことから、戸沢 PBL はインキュベクス株式会社に対して“仕事のやり方を変える”提言を行うテーマを持って活動することになった。

戸沢教授が上村社長に提示した方法論を図 1 に示す。



1 戸沢教授が提示した方法論

### 3.3.4 事業アーキテクチャ設計（ケース 1）

- 作成責任者:越水 重臣 氏(産業技術大学院大学 創造技術専攻 教授)
- タイトル:「新規事業を創造せよ(株式会社パーキング 365)」
- 教材資料:以下、資料 1 枚目のみ掲載

## 新規事業を創造せよ

### (株式会社 パーキング 365)

コイン駐車場を運営する(株)パーキング 365 は、これまでに業態を変化させながら、成長を続けてきた。現在、大きく分けて「駐車場事業」と「レンタカー・カーシェアリング事業」の 2 つの事業を手掛けているが、社長の北川は現在の事業が好調である今こそ、第 3 の事業の柱を打ち立てるタイミングと考えている。そこで、北川社長は、経営企画室の若手リーダーである A 君に新規事業開発を命じることにした。

### (株)パーキング 365 の会社概要と沿革

表 1 会社概要

設立	1971 年 2 月（東京都品川区）
事業内容	駐車場運営事業（東証 1 部上場）
代表者	北川清一（代表取締役社長）
売上高※	1,670 億円
営業利益※	175 億円
従業員数※	2,223 人

※2014 年 10 月期実績

### 3.3.5 事業アーキテクチャ設計（ケース 2）

- 作成責任者: 亀井 省吾 氏 (産業技術大学院大学 特任准教授)
- タイトル: 「NTTドコモ東北復興・新生への取り組み」
- 教材資料: 以下、資料 1 枚目のみ掲載

#### 事業アーキテクチャ設計ケース

## NTTドコモ東北復興・新生への取り組み



### プロローグ

2015年晩秋。佐藤は、溜池山王にあるオフィスの窓から見える外堀通りの車のヘッドライトの群れを眺めながら、4年前の東日本大震災直後の事を思い出していた。TVモニターからは、復興は不可能とも思えるような瓦礫の山と襲い掛かる大津波、そして津波の後の凄惨な情景がニュースの度に映し出されていた。

実際に現場を視察し、そのあまりの凄惨さに言葉を失った。この地に何とか希望をもたらせないだろうか。日本の通信の大動脈を維持してきたNTTドコモ社員として何かできないだろうか。そんな思いで社内を取りまとめ、東北復興新生支援室を創設し、ゼネラルマネージャーとしてプロジェクトを支えてきた。

佐藤は、1987年NTT入社。社内システム（人事、事業計画、顧客管理）開発に携わった後、マルチメディア推進本部にてビジネスデベロップング（ITS、光ブロードバンドアプリ：テレビ双方向教育）に従事し、2001年よりNTTドコモへ転じ、官公庁を中心した法人営業にて、ICカードや電子タグ、位置情報ビッグデータ解析などマルチプラットフォームへ向けた実証を行ってきた。2011年より東北復興新生支援室のゼネラルマネージャーに就任している。

あれから4年、複雑に絡みあう制約の中で実に様々な取り組みをしてきた。モバイルデバイスを活用した情報共有システムの構築、被災地の経済活性化、未来に向けた防災教育支援の他、NPO等支援プログラムでは団体の持続的活動を維持するための仕組みづくりを手伝い、東北発の活動を紹介するプラットフォームも創ってきた。それらの取り組みは同社の社会貢献活動として紹介され、一定の知名度を得るまでになっている。

一方で、何か足りないとも感じている。陰に日向に行ってきたこれらの活動は一時的なものとなってしまっていないだろうか。崩壊した地域の営みが再び持続可能な営みに戻り自立するにはどうすれば良いのか。その時、NTTドコモは何を担い、何を果たすべきなのか、「復興から新生への挑戦はこれからが本番となる」佐藤は再び自席で戦略を練り始めた。

### 3.3.6 事業アーキテクチャ設計 (ケース 3)

- 作成責任者:戸沢 義夫 氏(産業技術大学院大学 情報アーキテクチャ専攻 教授)
- タイトル:「在宅勤務」
- 教材資料:以下、資料 1 枚目のみ掲載

#### ケース 3 在宅勤務

2016 年 1 月 10 日 作成  
教授 戸沢義夫

課題: NHK のクローズアップ現代で、在宅勤務を制度化している企業はわずか 1.7%と報じられました。在宅勤務に消極的な企業を想定し、その企業に対し、あるべき姿を提案し説得してください。

##### 【添付 PDF】

クローズアップ現代 2015 年 8 月 3 日  
人事制度説明 (サイボウズ人事部)

##### 【参考 URL】

[http://www.nhk.or.jp/gendai/kiroku/detail\\_3695.html#marugotocheck](http://www.nhk.or.jp/gendai/kiroku/detail_3695.html#marugotocheck)  
<http://cybozu.co.jp/company/workstyle/>  
<http://cybozushiki.cybozu.co.jp/>  
<http://cybozu.co.jp/company/>

【参考ビデオ】産業技術大学院大学創立 10 周年記念シンポジウム (準備中)  
平成 27 年 11 月 27 日  
「個性の経営～イノベーションを生み出す～」  
青野 慶久 (サイボウズ株式会社代表取締役社長)

平成 27 年 12 月 16 日  
「次世代情報技術がもたらす新たな社会とリーダーシップ」  
橋本 孝之 (産業技術大学院大学運営諮問会議委員長、日本アイ・ビー・エム株式会社副会長)

##### インタビュー記録

2015 年 11 月 11 日 人事の責任者松川さんへのインタビュー ..... 2  
2015 年 11 月 16 日 青野社長へのインタビュー ..... 12  
2015 年 11 月 16 日 野水フェローへのインタビュー ..... 18

【注】インタビュー記録は戸沢が編集しました。話された通りの表現と違っている場合があります。

## 3.4 当教育プログラム試行運用状況

### 3.4.1 ガイダンス

- 日時:2015/04/11(土) 18:30-20:00
- ガイダンス 参加者 35 名、事業アーキテクトコースについて希望・興味あり 37 名
- 懇親会 参加者 27 名

### 「事業アーキテクト」コース

2015/04/11土曜 18:15-

### 教育プログラム

- 平成27年度から「事業アーキテクト」コースを新設する。
  - 当事業で開発した教育プログラムの試行運用
  - 定員10名程度（各専攻5名程度）
    - 情報アーキテクト専攻（定員50名）・創造技術専攻（定員50名）
  - コース決定
    - PBL型科目の履修
      - 新しい「事業アーキテクト」コースか、従来の各専攻のコース（システムアーキテクト、テクニカルスペシャリスト等）を決める。
    - 履修条件
      - 事業アーキテクトチャ科目群の8科目から10単位以上取得
        - 講義・演習型科目（経営戦略特論等）、事例研究型科目
    - 既存科目
      - 各専攻で学位を出すため、既存の各専攻の専門科目から16単位以上取得する必要あり。

4

### 事業アーキテクト

- 従来の仕組みを改革し、当該成長産業分野の加速度的成長を実現する
  - マネジメントとIT技術等の破壊的技術を駆使し、イノベーションを誘発し、産業の新陳代謝を引き起こすべく、事業開発を効率・効果的に実行し、生産性・付加価値を高める。
  - 事業開発として、実際に描いた戦略を自ら事業の構築、運用までを実現できる。
- 《修得する知識・スキル等》
  - 戦略（経営、マーケティング、リーダーシップ、スタートアップ等）
  - 技術（IT、製品開発、デザイン、マネジメント等）
  - 当該分野の業務知識・現状・課題
  - 各種のメソッド及びITツール（課題管理、CRM、コラボレーション等）
  - 法規・倫理
  - 事例研究及びPBL（Project Based Learning）

9

### 科目一覧 1/4

- 《新規:講義・演習型科目》事業アーキテクトチャ科目群
  - 経営戦略特論
  - スタートアップ戦略特論
  - マーケティング特論
  - リーダーシップ特別講義
  - ITソリューション特論
  - 事業アーキテクト特論（次世代成長産業）
- 《新規:事例研究型科目》事業アーキテクトチャ科目群
  - 事業アーキテクトチャ研究（事例研究）
  - 事業アーキテクトチャ設計（事業設計）

11

### 修了要件

科目群	種別			
	必修	選択必修	必修	
共通必修科目群（倫理科目）	-	2単位	-	2科目から選択
事業アーキテクトチャ科目群（新設）	-	10単位	-	講義・演習型科目（経営戦略特論等）、事例研究型科目の8科目から選択（PBL型科目の履修前に単位取得する必要がある）
専門科目群（既設）	-	-	16単位	情報アーキテクトチャ専攻または創造技術専攻の既存の専門科目から選択
事業アーキテクトチャ特別演習	12単位	-	-	PBL型科目（2年次）

・ 2年以上在学し、定められた授業科目を40単位以上修得すること（修了要件の40単位の総授業時間数は690時間（30時間×14科目+135×2科目）、総時間は1,800時間以上）

15

### 履修の手引

情報アーキテクトチャ専攻	創造技術専攻	補足
《倫理》共通必修科目群 2単位以上		修了条件
事業アーキテクトチャ科目群 10単位以上 経営・戦略 事業開発・問題解決		*1の履修条件 以下は履修することが望ましい。 - 事業アーキテクトチャ特論 - 事業アーキテクトチャ研究 - 事業アーキテクトチャ設計
《情報アーキテクトチャ専攻》 専門科目群 p.12 情報システム特論2等 14科目	《創造技術専攻》 専門科目群 p.13 技術経営特論等 9科目	16 単 位 以 上
《国際》専門科目群		履修することが望ましい。
《情報アーキテクトチャ専攻》 専門科目群 p.12以外	《創造技術専攻》 専門科目群 p.13以外	
事業アーキテクトチャ特別演習 12単位 *1		修了条件

19